

歴史・現状



『日本のフェミニズム 150年の人と思想』

井上 輝子 // 著 有斐閣 367.2/1

日本における「女性学」の生みの親である著者が、主要な人物や思想に焦点を当て、明治維新後150年のフェミニズムの歴史を綴る。

亡くなる直前まで書き続けた著者の熱い想いが伝わってきます。

『夫婦別姓 家族と多様性の各国事情』

栗田 路子 // ほか著 筑摩書房 324.9/7

夫婦同姓が法律で強制されているのは今や日本のみ。

他国の実情を知り、夫婦別姓制度の必要性和課題を考えるための必読書。

誰にでも「選べる」自由があるべきではないだろうか。

『女性の生きづらさとジェンダー 「片隅」の言葉と向き合う心理学』

心理科学研究会ジェンダー部会 // 編 有斐閣 367.2/ジ

女性が感じる生きづらさはどこからくるのか？「片隅」に追いやられた声を丁寧にすくい上げ、心理学的観点から長年研究してきたものをまとめた。

声を上げることで生きづらい社会は変えられる！と思える本です。

『LGBTQ運動の歴史 ヴィジュアル版』

マシュー トッド // 著 原書房 367.9/ト

性的マイノリティの権利と平等を求める闘いと歴史的瞬間を解説する。カラー写真やLGBTQ関連の政治・スポーツ・文化などの情報が多く載っています。

『ノーベル文学賞が消えた日 スウェーデンの#Me Too運動、女性たちの闘い』

マティルダ ヴォス グスタヴソン // 著 平凡社 368.6/グ

2018年5月ひとつのニュースが世界に衝撃を与えた。

「今年のノーベル文学賞は発表中止。」

中止になったきっかけは選考組織に大きな影響力を持つ人物の性暴力の告発だった。スウェーデン本国でベストセラーになった一冊です。

男女共同参画 ブックリスト

令和3年度 下半期購入分
三条市立図書館

貸し出し中のご予約できます。
また、分館の資料はお取り寄せもできます。
カウンターまでお申し出ください。

生き方・働き方

『ワーク・ファミリー・バランス これからの家族と共働き社会を考える』

高橋 美恵子 // 編 慶応義塾大学出版会 366.7/7

ワークファミリーバランス(=仕事と家族との調和)を積極的に進めてきたのがスウェーデン、ドイツ、オランダの3か国である。各国の政策や背景を比較しながら、「男は仕事。女は家庭。」という考えがいまだ根強く残る日本でどう実現していくか考察します。

『多様性って何ですか？ SDGs, ESG 経営に必須！』

羽生 祥子 // 著 日経BP 336.4/ハ

いま、会社や組織に多様性が求められている。現状と企業が具体的に何をすればいいのかを分析する。「女性活躍が進まない言い訳トップ5」や

「女性が活躍する会社BEST100」などのデータもあります。

『がんばりすぎないお仕事復帰BOOK 産休・育休中の不安がスーッと解消される』

藤井 佐和子 // 監修 KADOKAWA 366.3/ガ

妊娠、出産、子育て とても幸せなこと...

ただ働きながら、それらをこなすには大きな不安が伴う。本書では申請や手続きなどの具体的な情報が分かりやすく書かれています。

『妻六法』

森 公任 // 著 扶桑社 320/モ

結婚すると「妻」になる。そうすると今までとは違ったトラブルや問題に直面することがある。弁護士である著者が家族や自分自身の大切な人を守るための法律をケースごとに詳しく解説します。

『私は男でフェミニストです』

チェ スンボム // 著 世界思想社 367.2/チ

韓国の男子高校に勤務する男性教師が著者。

「男性がなぜフェミニズムを学ぶべきなのか。」

ジェンダー問題を著者自身の経験を通して読みやすく書いています。

家族



『子どもを育てられるなんて思わなかった LGBTQと「伝統的な家族」のこれから』

古田 大輔 // 編 山川出版社会 367.9/コ

インタビューとともに様々な家族のかたちを紹介する。

また、LGBTQ家族が直面する法的課題、なぜ法整備が進まないのか考えます。

『ムスコ物語』

ヤマザキ マリ // 著 幻冬舎 726.1/ヤ

日本・海外と各地に拠点を移しながら、異文化に順応し逞しく成長する息子との日々を描く。「家族とはこうあるべき」という固定概念を覆すパワフルな一冊。

巻末にムスコ目線から見た「ハハ物語」もあります。

『父がひとりで死んでいた 離れて暮らす親のために今できること』

如月 サラ // 著 日経BP 367.7/キ

遠く離れた実家で父親が孤独死していた。

いきなり現代のさまざまな問題を抱えることになった著者の、約一年間にわたる行動や心の動きをまとめたエッセイ。

インパクトのあるタイトルにドキッとしますが、同じような状況に不安を抱えている人に寄り添う内容になっています。

『母のトリセツ』

黒川 伊保子 // 著 扶桑社 367.3/ク

母・娘・姑で脳科学者である著者が書く「トリセツ」シリーズ最新作。

体幹と手足のコントロールをする小脳には4つのタイプがあり、その違いを理解すれば、「母親との上手な付き合い方」が見えてきます。

